

放送日： 平成 20 年 1 月 21 日

タイトル： 甲状腺の病気

担当者： 医師 池田 和弘

こんにちは。公立甲賀病院、内分泌代謝内科の池田です。  
今日は、「甲状腺の病気」についてお話しします。

まず、甲状腺という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか？

甲状腺というのは、顎の下の首の前、男性だと喉仏の下あたりにある、ホルモンを作る臓器のことです。

甲状腺が作るホルモンは、甲状腺ホルモンと呼ばれています。

毎日、一定量の甲状腺ホルモンが作られては、血液中に分泌され、身体中を巡っては、新陳代謝を調節する働きを担っています。

甲状腺ホルモンが、ふつうより沢山血液中に分泌されると、新陳代謝が活発になります。

ただ、これがあまりにも過ぎると、身体の具合が悪くなります。

例えば、運動したわけでもないのに胸がドキドキしたり、手や指が震えたり、暑がりや汗っかきになったり、食欲が旺盛な割には太ることがなかったり、おなかを下したりします。

さらに、神経質で情緒不安定になったり、イライラして落ち着きがなくなったり、身体中がけだるくなったり、男性の場合は性欲の低下、女性の場合は生理周期の異常まで起こします。

これだけ多種多様な症状が出るのも、ホルモンの病気ならではのです。

心臓の病気や胃腸の病気では、ここまで色々な症状が出てくることはまずありません。

一方、甲状腺ホルモンが、ふつうよりも少ない量しか血液中に分泌されなくなると、新陳代謝が悪くなります。

こちら、あまり度が過ぎるようになると、身体の具合を悪くしてしまいます。

例えば、寒がりになったり皮膚が乾燥してきたり、眉毛や脇毛が抜けやすくなったり、カラダを動かすのが遅くなり、何をするにも腰が重くなります。まぶたや舌、手足に浮腫みが出てくるのも特徴的で、声がしわがれてきます。

さらに、脈が遅くなり血圧が下がったり、食欲がなくなり便秘になったり、妊娠してもいないのにおっぱいがでるようになったり、さきほどと同じく生理周期の異常まで起こします。

このように、新陳代謝を司る大事なホルモンですので、それが沢山出てもあまり出なくなっても、どちらも身体には良くないことが起こるのです。

こういったホルモンの病気は甲状腺に限らず、一般に女性に起こりやすく、特にホルモンバランスが崩れる 40 台くらいから多くなります。

甲状腺ホルモンが沢山出してしまう病気は、女性の場合 200 人から 300 人に一人の割合でみつきり、甲状腺ホルモンが出にくい病気はもっと多くて、20 人から 30 人に一人の割合でみつきります。特にお年を召してくると、10 人に一人の割合で見つかるとも言われており、けっして他人事ではありません。

さきほどお話ししたような症状は、ひとつだけなら誰にでもある症状ですが、いくつもの症状が当てはまるという場合は、早めに内科を受診して下さい。

今の医学では、採血をするだけで診断が可能です。公立甲賀病院でも、1 時間半ほどお待ちいただければ、その日のうちに診断の第一歩は済むくらい、簡単に検査が行えます。

大事なのは、そういった病気ではないか、と疑ってみることです。

特に、更年期障害に悩む女性の場合は、まずは甲状腺の検査を受けられることをオススメします。

さて、このような多彩な症状が出てきた場合にも、甲状腺の病気は疑われるのですが、それとは別に、目

に見える身体の形の変化で甲状腺の病気が疑われることもあります。

それは、甲状腺が腫れるということです。

先ほどもお話ししたとおり、甲状腺というのは顎の下の首の前、男性だと喉仏の下あたりにあります。ふだんは、そこに甲状腺があること自体、誰も気がつかないほど薄っぺらい臓器ですが、この甲状腺が腫れてくると首の下の方が張れてきます。

健康診断で医者から指摘されることもあれば、声がしわがれてくることで気づくこともあります。そんな時、先ほどお話しした多彩な症状に思い当たらなくても、内科を受診していただきたいのです。

甲状腺の病気では、ほとんどの場合、大なり小なり甲状腺が腫れます。ホルモンをたくさん作る場合も、あまり作らなくなる場合も、あるいは普通の人と同じように正しく作ってくれる場合もありますが、明らかに腫れている場合は、その原因を調べておいた方が安心です。中には、甲状腺に癌ができている場合だって、数は少ないですがあるからです。

たいていの甲状腺の病気は、お薬を飲むだけで症状をコントロールすることができます。お薬を飲まずに様子を見ていてよい場合もあります。

まずは、受診してみて下さることをオススメします。